

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504310		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 戸手		
所在地	広島県福山市新市町戸手2282-1		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和3年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と変わらぬ雰囲気の中、暮らして頂けるよう支援しています。
洗濯干し、食事の下ごしらえ、食器洗いや食器拭きなど、その方の出来ることを大切に、やりがいのある生活を営んで頂けるよう支援しています。
感染症蔓延防止の対策を習慣とし、入社時の検温・手指消毒、室内の換気や室内の消毒作業に取り組み、退社後も介護職として感染症を持ち込まない・持ち出さないことを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では歌・風船バレー・健康すごろくなどのレクリエーションを毎日開催し、利用者と職員と一緒に笑い楽しんで過ごしている。利用者の思いを尊重し、本人本位に生活できるよう職員は個々の思いや意向に添った柔軟な対応に努めている。利用者に応じて出来る事を見つけて役割・楽しみごとを支援し、洗濯や食事などの作業に利用者は積極的に取り組んでいる。利用者へのケアや行事など職員から起案があれば反映し、職員の育成と意欲向上となっている。職員の目安箱を設置する工夫から、職員全体へ問題提起し解決へと取り組んでいる。管理者は毎月家族に手紙と写真を送付し、報告・連絡も随時行うなど、家族と信頼関係を築き安心感へとつなげている。事業所ではチェック表を用いて大掃除や布団を管理し、環境整備や整理整頓に努めて居心地よく過ごせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に加え、職員個々も年度初めに介護目標を掲げ、実践に繋げるべく努力する。	法人理念をもとに、管理者は年頭方針を伝え、職員は介護目標を掲げて、日々の実践につなげている。年2回の面談と年度末に振り返りを行っている。気になる事例があればミーティングで話し合い、職員全体で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の清掃活動に参加している。地域住民が育てたバラの花を観賞させてもらう。	町内会に加入し管理者は清掃活動に参加している。地域とのつながりがある事業所オーナーから地域の情報が得られ、祭り時には紙垂を飾っている。利用者の散歩時に住民と挨拶を交わし、近隣の方が雨降りを知らせてくれることもある。民生委員が事業所の様子を見に来所したり、庭のバラを見せてくれたりと事業所を気にかけてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば、認知症の理解や支援の方法を説明する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症防止対策による、法人の指針に則り、現在は運営推進会議は開催出来ていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議は開催していない。運営推進会議のメンバーには中止のお知らせと事業所の広報誌を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染症防止に関する福山市からの通達に従い、職員全員が周知することで感染予防している。	市からは感染症に関する情報提供などがあり、電子申請サービスも活用して連携している。福祉課とは生活保護の件で、地域包括からは空室の問い合わせがあり、相互協力の体制を築いている。県の介護保険課から研修案内があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げ、全職員で取り組んでいる。事業所内で定期的に研修を行い、身体拘束の理解を深める。	ミーティング時に研修や身体拘束及び虐待防止委員会を3ヶ月に1回開催し、職員の共通認識を図っている。職員アンケートによる意識調査を行い、不適切ケアの検討をしている。外に行きたい人に対しては見守りや一緒に外出する等で対応し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回以上の虐待防止委員会と研修会を開催し、意義を学び実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者を守るための制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や心配事があれば、納得いただけるまで話し合いがされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からのアンケートや、事業所に意見箱を設け、家族からの要望を聞き、それを運営に反映させる。	利用者からは日常生活の中で、食事や草取り、帰宅などの要望があり、利用者主体の対応をして反映させている。家族からは面会時や法人アンケートで意見を把握し、利用者の喫煙や自由な暮らしに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、運営について報告を行う。その内容について意見交換を行う。	ミーティング時の意見交換や個人面談・個々の時間に意見や要望を聴き、勤務希望やシフト調整などに活かしている。また職員の目安箱を設置し、声かけなどの改善効果が得られた。職員からの発案を介護計画に取り入れ反映させ、職員のやりがいにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が認められ、やりがいを感じる事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会がある。ホーム内でも月に1回、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修を受けることの出来る機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前のインテークでお話を伺い、ご本人の要望に出来るだけ添えるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、ご家族としっかり話を伺い、要望や心配事等を傾聴し反映させる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援と、新しい環境に慣れて頂くためのサービスを考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事を共にする。 ゲームを一緒に楽しむ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から利用者について伺い、一緒にどうすればよいサービスを提供できるか考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係を続けられるよう、面会時は場所を提供する。	希望時に玄関での面会や電話の取次ぎを行っている。面会時に家族から100歳をお祝いする品物や孫が手作りしたメダルを送られ居室に飾っている人、帰宅願望から自宅や娘の家に行き、娘と会話できた人、年賀状が届き返信する人など個々に支援している。管理者は毎月家族に手紙と本人の写真を郵送し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での会話が難しい場合は、職員が間に入り会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、要望にこたえるよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような事を望まれているか、選択しやすい質問をする。	日常生活の中で本人の話を聴き、自己決定しやすい声かけの工夫で思いや意向を把握している。得られた情報は介護記録で共有し、できる限り本人の意向に添った対応に努めている。本人と家族の意向から、必要時喫煙所で煙草を吸う支援をしている人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人から昔の話を聞き、好きだったことなどを続けて行けるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護記録に残すことで把握。関わりを持つことで見えてくるもの、新しい発見もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にモニタリングやカンファレンスで意見交換する。他ユニットの職員も参加することで見方や違った意見も出るので反映させる。	担当者が家族の意見も取り入れて介護計画を作成し、両ユニットでカンファレンスを行っている。モニタリングを3ヶ月毎に、見直しは最長1年、又は介護認定更新時や区分変更時、状態変化時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく見守り、変化にはいち早く気づき、詳しく介護記録に残す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでやって出来る事は取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内にとどまらず、地域への外出機会を増やす。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時以外でも、体調の変化を医師に相談出来ている。	入所時に事業所での対応を説明し、本人・家族の希望のかかりつけ医としている。協力医の往診があり、看護師やかかりつけ薬剤師とも協力関係を築いている。受診は送迎のみを行う場合もあり利用者に応じて職員や家族で対応している。夜間・緊急時は協力医に連絡し、指示を仰いでいる。歯科は適宜往診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師間で情報共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時早期に病院と連携をとり、必要であれば情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望を取り入れて、ホームで出来る限りのことを希望に添えるようにする。	入所時に事業所でできる事・できない事を説明している。看取りの希望があれば受け入れている。状態が変化すれば家族に状況報告し、家族の意向を確認しながら医師・看護師と連携し、終末期に向けた支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて、急変時や事故対応について学ぶ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難優先順位をつけ、避難場所の確認もしている。	3月に夜間火災想定、7月12月に水消火・自衛消防訓練を利用者も一緒に実施している。7月には消防署の立ち合いが得られた。訓練後の振り返りも行い、今後に反映させている。水害時には新市支所に避難する予定で避難経路の検討中である。備蓄は約3日分あり法人で協力体制を築いている。	地震対策として家具の固定及び高所の物品の位置を検討し、安全面の強化を図ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレ時の入室はノックして了解を得ている。個人的な内容の話は、他者に聞こえるような大声で話さないよう努める。	トイレ内の私物にはイニシャルを使用し、排泄時など羞恥心に配慮した対応に努めている。気になる事例があればプライバシーに関する勉強会を行い、職員へ意識付けをしている。利用者を苗字で呼名し敬意を払い、利用者同士の関係は見守りや声かけで対応し配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望通りに色々なことが出来るように働きかけている。選択しやすい質問をして決定してもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課に合わせず、食事や入浴などを本人の希望の時間や日を合わせる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や体型に合った服を家族と用意し、組み合わせて着て頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも手作りなので、望まれる食事を提供することが出来る。 下ごしらえや、後かたづけは利用者と一緒にする。	事業所の畑で採れた野菜も利用しながら、毎食職員が手作りしている。利用者は積極的に畑の手入れや収穫、下ごしらえ・後片付けなど職員と一緒に出来る事を見つけて役割を果たしている。季節や誕生日などの行事食を大切に、利用者の希望を取り入れてメニューの変更もしている。団子やどら焼きなども職員と一緒に作り、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師が栄養状態を把握し、体重の増減にも気をつける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自力で難しい方は介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るように適宜トイレ誘導や介助を行う。	日常生活での歩行や体操などで排泄の自立支援を工夫し、日中は全員、夜間もほとんどの人がトイレを利用している。利用者の状態を把握し、身体機能に応じた対応を心がけている。家族と相談しながらパッド類を考慮し、家族の負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は便が出やすいものを提供したり、マッサージするなど働きかける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分で、本人希望時に入浴してもらう。入浴日や時間を変えるなど柔軟に対応する。	週2回入浴を行い本人の希望に応じて湯船にも浸かっている。入浴準備を職員と行う人、入浴中に音楽を聴いたり昔の流行り歌を歌う人、冬至には柚子を浮かべるなど入浴の楽しみを支援している。脱衣所に転倒防止の為に滑り止めを設置し安全面への配慮に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前には生活音がしないよう気を配る。室温や湿度調整をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2名以上で名前や服薬時間を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の性格や得意な事を把握し、役割を分担する。好きなゲームをしたり、飲み物はメニュー表から選んでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人込みを避け、紫陽花や紅葉を鑑賞するドライブに出かけている。	日常的に、畑の世話や外に出たい人に対して一緒に散歩やドライブをするなど本人の希望に沿った自由な暮らしを支援している。行事では初詣などのドライブ、駐車場で花火大会を開催し戸外に出る機会を設けている。家族も協力的で、感染防止に配慮しながら外出や帰宅する人、自宅で100歳の祝いの食事会を親戚と一緒にした人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が希望される物品の購入に協力する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りを手伝う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りや、季節の花を生けるなどして季節を感じてもらえるよう工夫する。ごろ寝スペースなど、好みの場所で過ごす。	明るいいりびングのテーブルに利用者は集い、テレビやレクリエーションを楽しんでいる。窓辺のゆったりとしたソファやベッドでは日光浴や寝そべる事ができ、利用者はそれぞれのペースで好きな場所で過ごしている。共用空間は清掃・整理整頓が行き届き、季節に応じた壁飾りが施され、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごせるような声掛けや、ソファーやテーブルの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家族の写真等を、家族や本人と相談し設置している。	居室にはテレビや家族の写真などが持ち込まれ、壁には利用者の作品が飾られている。本人が枕を上下好みの位置に変えたり、視覚障害の人には触って自室を確認できるようにドアノブに工夫するなど、一人ひとりが居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設け、安全に生活できるようにする。立ち上がりやすいように、座る位置やベットの位置に配慮する。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震対策として、家具の固定及び高所の物品の位置を検討することが必要。	高所からの落下物が無いよう、安全面の強化を図る。	高所の物品の撤去。	1か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()